

茨城県金融広報委員会
茨城県立那珂湊高等学校

実 施 報 告

「金融教育講演会・公開授業（那珂湊高等学校）」（11月27日開催）

【学校の特徴や概要】

茨城県立那珂湊高等学校は、1901年に湊町立湊商業学校として創立し、今年創立118年を迎える歴史と伝統のある県立高校です。

生徒達は、大変恵まれた環境の中で勉強・部活・生徒会活動に取り組んでおり、商業に関する学科3クラスと普通科1クラスの一学年4クラスで構成されている中規模の高校です。また、授業の一環で生徒が描きあげた「みなとちゃん」を学校のキャラクターとし、地元ひたちなか市を盛り上げる様々な活動を行っているほか、「みなとちゃん」をイメージキャラクターとしても使用して、様々な商品を作っています。このように、学校・地域との密接な関係を持ち、生徒一人一人が活躍できる場を広げ、生徒が取り組んでみたいという意欲を大切にして、育てていけるよう支援しています。

本校職員は、社会の激しい変化に対応するために、日々研鑽して授業だけでなく、様々な活動やICTの活用を通して生徒一人一人と向き合い、生徒が今まで以上により充実した生活が送れるように、教科指導・進路指導・生徒指導に意欲的に取り組んでいます。

11月27日（水）に金融教育講演会・公開授業を開催し、研究校として2年間（2018・2019年度）金融教育に取り組んできた内容を1年生から3年生の公開授業で発表しました。LHR、商業科、数学科、社会科、家庭科での公開授業は、各教科の特徴を生かしながら、様々な角度から金融教育を行っている実践事例の報告授業となりました。また、茨城県金融広報委員会金融広報アドバイザーの野澤氏による講演会も行いました。

<参加者>

495名

- 生徒428名、開催校教員43名、他校教員23名、
地域の方1名

1. 講演会

野澤氏から、「君たちは人生百年をどう生きるのか」と題する講演が行われました。

はじめに、「2001年～2003年生まれの君たちの半数が105歳より長く生きる！」というスライドから、平均寿命が延びている現状の一方で、健康寿命との差が出ている現状を確認しました。人生80年時代では、教育期20年・仕事期40年・引退期20年と、三つのライフステージをイメージしていましたが、今後は、100年時代になると教育期20年・仕事期と引退期を合わせて80年時代になるという状況を講演して頂きました。

そこで、「長い人生をどのように生きていくのか考えていくことが大切である」と高校生に向けて強く発信して頂きました。そして、今後、日本の会社の仕組みは変化していくであろう、という話もありました。また、生徒達に対しては、生きていくうえで大切な「契約」に関するクイズやお金を借りた時の年利計算クイズを「○・×」で答えさせるなど、ただ講演を聴くだけでなく自分達の考えを表現することで、心に留まる講習会となりました。

生徒からは、「長生きするという実感が湧いた」とか「長い人生には計画が大切」などの感想が聞かれました。また、講演の中にあつた「ライフプランシート（実現してもしなくても、計画を立ててそれに向かって努力することの大切さ）」を作成し、「目標に向かって頑張してほしい」という高校生への応援エールも頂きました。



2. 公開授業

- (1) 「家計管理について」と題して、家計管理の重要性と必要性、活用方法について考えることを、1年3組のLHRの授業が行われました。

ワークシートを用い、限られた収入に合わせて現実的な家計管理を体感することで、収入にあったメリハリのある支出を実行することが大切であることを学ぶことができました。



- (2) 「修学旅行の振り返り」と題して、自分が何に何故ここでお金を使うのか、自覚して表現できるようになることを意識した、2年2組のマーケティングの授業が行われました。

高校生活最大のイベントの1つである修学旅行を題材に、自分のお金の使い方と他人のお金の使い方を知ることで、お互いの価値観を認め合うことができ、その価値観を持つことで将来の自分の進路を意識できるような展開でした。



- (3) 「データの分析」と題して、数学の視点から金融教育を考えることを、2年3組の数学の授業が行われました。

データの特徴を表す数値には、平均値、最頻値、中央値があることを理解し、それぞれの値を求め、高校生のお小遣い平均値を意識することができました。



- (4) 「日本人と金融」と題して、日本の金融史の概要と日本人の貨幣経済の関わりを理解することを、2年A組の日本史の授業が行われました。

デジタル黒板を使用し、自分の意見を Google フォームで送信し、その意見を全体で共有することで、「貨幣価値を全員が信用しているから貨幣経済が成り立つ」ということを理解することができました。



- (5) 「食生活をつくる」と題して、自分の収入から何に重点をおいた支出をしていくかを考える3年1組の家庭総合の授業が行われました。

収入の中から、食費を算出して一食で栄養のとれる井ぶりを考え、発表する展開でした。自分たちが大切にしたい支出や将来こんな大人になりたいことを発表し合う中で、他人の発表を良く聞くことで、地産地消や環境に考慮した今後の人生設計を考えることができました。



- (6) 「広告計画の手順と内容」と題して、広告媒体を利用した、3年2組の広告と販売促進の授業が行われました。

広告料金のシミュレーションをゲーム感覚で比較し、生徒達が自ら問題点を見つけ、解決方法をグループで話し合うことによって、多方面から広告の意義を考えることができました。



3. 研究協議

(1) 本校の金融教育について

金融教育研究校の委嘱を受けて、①「お金を通して生計を管理する基礎を身に付け、より豊かな生き方に向けて主体的に工夫や努力する態度」を通じて、「自立する力」を身につけること、②「金融や経済の働き・仕組みなどの理解し、自分が社会に支えられ、また、働きかける関係にあることを自覚して社会に感謝するとともに、社会が抱える様々な課題に関心を持ち、公正で持続可能な社会の形成を意識して考えて行動する力」を養うこと、という二つのことを目標に授業の展開を行ってきました。

昨年度に、アンケートを本校生徒対象に行ったところ、「自分の銀行口座をもって、ある程度のお金を自分たちで自由に使っていること」や、「契約」、「クレジットカード」等の金融に関する言葉を知らずに生活していること」が分かりました。そのため、高校卒業までに大人の準備期間として、自立の精神を養うことを目的とし、キャリア教育を軸とした金融教育のあり方を考えた授業実践が望ましいと考えました。

金融教育を行う中で、従来の教育活動である「商業に関する科目」、「地歴・公民」、「家庭総合」、「インターンシップ」、「デュアルシステム実習」、「保育園・介護施設実習」などに加え、証券取引所と消費者庁へ見学、消費者生活センターや一般企業の方を外部講師に招いて、「契約」、「人生設計」、「地産地消」、「進路」などの授業を実施しています。なお、私達教員も長期休業を利用した金融教育に関連する各種研修にも参加しました。

(2) 本日の公開授業について

① LHR学習指導（1年3組）：鈴木麻衣子 教諭

生徒が来年度のクラス選択の時期にきているので、自分が今後どのように生きていくのかを考える授業を行いました。理想と現実の違いを意識させることによって、生徒が生き生きと取り組むことができました。

② マーケティング学習指導（2年2組）：外山直行 教諭

授業の中に生徒自身の経験を取り込むように常に意識しています。人は自分の経験から学ぶことが多く、今回の修学旅行はお金を使う一大イベントだったので、自分のお金の使い方と他の人のお金の使い方を比較することで、価値観を認め合うことができました。

③ 数学科学習指導（2年3組）：栗原幸子 教諭

金融教育のお話を頂いた時に、数学の視点からどんなことを学ばせることができるのかを考えました。代表値の分野でお金を使って表すことで、言葉の意味が理解し易くなるように実践しました。生徒が言葉の意味を的確に理解できたので、このような形からの働きかけが大切だと実感しました。

④ 日本史学習指導（2年A組）：平塚雄大 教諭

日本人が「お金」とした貨幣について、歴史を通して学びました。ただの紙ではなく「お金」として活用するには、信用が大切であることを伝えたいと思い展開しました。日本の紙幣は精巧にできており、その裏付けで信用が大切だということが伝わったと思います。

⑤ 家庭科学習指導（3年1組）：鈴木治子 教諭

自分の収入からどのようにしたら栄養価の高い食事をとれるのか、考える必要があると思い展開しました。カリキュラムマネジメントを行い、商業科目で価格調査・材料費の計算・プレゼンテーションの分野について、家庭科で栄養面や将来設計の分野や環境分野を学べるようにしました。生徒は、様々な角度から将来設計について学ぶことができたと思います。

⑥ 商業科（広告と販売促進）学習指導（3年2組）：庄司一馬 教諭

日常でよく目にする広告をどのような意図で作られているか、という視点から授業を組み立てています。生徒が「より効果的な予算内で、広告を仕上げるができるようなシミュレーションをすることが大切である」という意識が持てたと思います。なお、レポートで評価をするのですが、高校生ならではの意見が出てくることがあり、生徒の感性に驚かされる場面もあるので、これからの生徒の意見が楽しみです。

(3) 講評等

① 公開授業の中で、3クラスに絞って参観しました。1年生のLHRにおいては、全体像から支出を考えるには、控えなければならない支出があることを実感したように思います。 (山口 金融広報アドバイザー)

② 全部のクラスを参観しました。各科目の特徴がでている授業を見学することができ、生活するうえで、お金に対する働きかけを多方面から行うことができた授業展開だったと思います。 (平澤 金融広報アドバイザー)

- ③ 金融教育は生活を示す教育なので、様々な方面から取り組むことができます。今回は、学年や科目も違った金融教育を参観することができてとても良かった。今後、貴校の授業に期待します。 (金澤 金融広報アドバイザー)

(4) 金融教育公開講座について

「人生100年時代」が現実になっている状況下、人生設計が非常に必要な時期になってきています。金融教育は、その人の人生を支える大切な教育です。自分の将来を考え、夢をもつ生徒に育てることを実現するために、計画や努力が必要であることを、改めて意識してもらいたいと思います。

(野澤 金融広報アドバイザー)



4. プ ロ グ ラ ム

13 : 25 ~ 14 : 15 金融教育講演会

主催者挨拶

茨城県金融広報委員会副会長 吉田 豊 氏

講演「君たちは人生百年をどう生きるのか」

講師：茨城県金融広報委員会

金融広報アドバイザー 野澤 通 氏

14 : 25 ~ 15 : 15 公開授業 (6 校時)

1 年 3 組 (商業に関する学科) LHR

2 年 2 組 (起業ビジネス科) マーケティング

2 年 3 組 (情報ビジネス科) 数学 I

2 年 A 組 (普通科) 日本史 B

3 年 1 組 (会計ビジネス科) 家庭総合

3 年 2 組 (起業ビジネス科) 広告と販売促進

15：30～16：20 研究協議

学校長挨拶

鈴木 浩二 校長

(1) 本行の金融教育について

金融教育担当

鈴木 治子 教諭

(2) 本日の公開授業について

各担当教諭

(3) 講評等

茨城県金融広報委員会

金融広報アドバイザー

(4) 金融教育公開講座について

茨城県金融広報委員会

金融広報アドバイザー

(5) 質疑応答等

以 上